

新刊紹介

全労連女性部のあゆみ編集委員会編・川口和子監修

『明日をみんなのちからで
—全労連女性部結成とそのたたかい』
中嶋 晴代

本書は、「全労連や全労連女性部結成への熱い思いとその後の女性部運動の足跡を記録に残そう」と、歴代の全労連女性部役員等による編集委員が分担して原稿を書き、川口和子さん（労教協常任理事・労働総研理事）が監修して作成された。

第1章は、全労連女性部結成前後の社会的背景と財界・政府の女性労働力政策について明らかにしている。第2章「全労連結成と全労連女性部の結成」は、その土台となった統一労組懇婦人連絡会（1979～1989年）の活動および厳しい攻撃に屈せず、全労連および女性部を結成したたたかひの記録である。雇用機会均等法や育児休業法をめぐるたたかひも含め、全労連結成に至る様子が女性労働者の視点から記述されている。第3章「全労連女性部のおもなとりくみ」は、1990年の結成から2005年までの間に全労連女性部が重点的にかかわったとりくみについて、①労働法制改悪反対、②男女差別是正、③母性と健康、④仕事と家庭の両立、⑤非正規労働者の均等待遇実現、⑥看護婦闘争、⑦平和と民主主義・憲法、⑧女性の共同、⑨国際連帯活動の課題別に、コラムも挿入しながらそのたたかひをまとめている。

全労連結成の意義や、今日、あたりまえと思って行使している男女平等、母性保護、育児・介護休業などの諸権利がどんなたたかひによって実現したのかを知らない労働者も少なくないもとで学習資料として活用できるものである。労働法制関連年表、「女性労働基準」の変遷、均等法や育児・介護休業法制定・改正のおもな内容、この間の年表などの資料も役に立つ。

こうしたとりくみによって、男女平等にむけての制度は不十分さを残しながらも着実に前進してきた。均等待遇実現や仕事と家庭の両立などの女性労働者の切実な要求は、いま、人間らしく生き働くための男女労働者共通の課題として新たな前進がはじまっている。一方、財界・政府は貧困と格差の拡大、労働法制のいっそうの改悪等を推し進め、雇用形態の

違いや成果主義管理によって巧妙に女性差別を維持する新たな攻撃を強めている。

全労連女性部のたたかひは、不当な攻撃に屈することなく、平等に生き働くことを求め続けてきた女性労働者の戦前からのたたかひの継承であり、今後の運動の発展に引き継がれるものである。労働運動における女性部や女性労働者の果たす役割が改めて問われている現在、これからの労働運動を担う方々に読んでいただきたい本である。

（学習の友社・2006年7月・1,524円）

（なかじま はるよ・会員・前全労連女性部長）

交通運輸労働組合共闘会議著

『規制緩和で安全輸送が崩壊した——
安心・安全な交通運輸を』
中島 康浩

本書は、交通運輸産業ですすめられた「規制緩和」路線によって、人命無視の「合理化」が進行し、安全輸送が崩壊したことを、陸・海・空の業種ごとに検証したパンフレットである。あわせて、安全・安心な交通運輸行政をめざし、働くものの視点から各々問題点をあばき、具体的な政策提起を行っているのが特徴。全体を26ページに抑え、1業種2ページの見開きで完結させるとともに、読むというより、グラフや図表、写真などで見せるように工夫されている。

記憶に残る事件やマスコミ報道でも、JR福知山線の脱線・転覆事故をはじめ、タンクローリー運転手の過労死、駅や繁華街にあふれるタクシーと最低賃金に満たない低賃金、激増する輸入食品・減少する検査率、航空会社のリストラや機体の整備ミス…挙げればきりが無い。再発防止を訴えるニュースに交運共闘の仲間がしばしば登場したものである。こうしたなかで、国土交通省は2005年度から交通政策審議会を設置して、新たな対策を各分野の小委員会で議論している。本パンフは、安全・安心な政策の対案として小委員会論議に反映させることも目的に発行された。

発行直後に、交運共闘に参加する全運輸省労働組